

明日への Lesson

第1週 イノベーション

第2週 メッセージ

第3週 クエスチョン

第4週 キャンパス

東京大学入試問題から

感染症による社会の変質を考える

受験世界史専門塾代表
ゆげひろのぶさん

感染拡大が続く新型コロナウイルス。緊急事態宣言が出るなど私たちに与える影響は未曾有の事態となっているが、歴史をひもとくと、世界規模の感染症の流行は何度も起きていた。東京大学の2015年度の入試問題を題材に、感染症がもたらす社会の変化について、受験世界史専門塾ゆげ塾（東京都豊島区）のゆげひろのぶ代表に解説してもらった。

14世紀にパンデミックを起こし、黒死病と呼ばれたペスト。大航海時代に欧州とアメリカ大陸で交換されたと言われる天然痘と梅毒。ベンガル地方の風土病が、英国の覇権拡大で世界に伝播したコレラ。第1次世界大戦の終戦の一因にもなったスペイン風邪……。感染症が大規模に流行するたびに多くの人命が失われ、また、一方、感染症は、歴史の教科書に載っている様々な出来事のきっかけにもなっています。

「ペストは近代の陣痛」という言葉があります。ペストの流行が、暗く息苦しい中世から明るく自由な近代への転換をもたらしたという考えです。東大の問題にはペストが出てきます。まずは、その文化的側面を説明しましょう。

中世の西ヨーロッパは神に対して敬虔でした。ところが人口の3分の

ペスト後にめばえた「自由」の数々

東京大学2015年度前期・世界史問題（一部改題）

問

13～14世紀を「モンゴル時代」ととらえる見方が提唱されている。「大航海時代」に先立つこの時代に、モンゴル帝国がユーラシア大陸の大半を統合したことによって、人・モノ・カネ・情報がさかに行きかうようになったことを重視した考え方である。この時代に、東は日本列島から西はヨーロッパにいたる広域において見られた交流の諸相について、経済的および文化的（宗教含む）側面に焦点を当てて、以下の8つの語句を1度は用いて論じなさい。

ジャムチ 授時暦 染付(染付磁器) ダウ船 東方貿易 博多 ペスト(黒死病) モンテ・コルヴィノ

① 広大なモンゴル帝国を築いたチンギス・ハーン。アジアから入ってきたペストで、ヨーロッパの人口の3分の1が死亡したとされる



② 大正時代のスペイン風邪流行時、マスクをつけて通学する東京の女学生たち



解答例

ペスト（黒死病）部分の解答は、以下の三つに言及できて満点と考える。

- ・ 交易により、ペストが流行した
- ・ ペスト流行により、ルネサンスに至った
- ・ ペスト流行により、資本主義が芽生えた（ゆげさん）

1がバタバタと死んでいく。そうすると「神様はいないのでは……」「どうせ死ぬなら好き勝手に」となります。ペストが猛威を振るった14世紀に出された『十日物語』には、修道院長が露骨に性交を迫る場面があり、近代小説の始まりとされます。ペストは従来の価値観に大きな変化をもたらしました。これがルネサンスです。

次に経済的側面です。同じく中世の西ヨーロッパでは、農村は共同体でした。畑には柵がなく、みんなで働いて、領主に年貢を納めた残りをみんなで分け合いました。しかしペストによる大量死は極端な労働力不足をもたらします。そこで領主は農民の労働意欲を上げるために、それぞれに土地を貸し出します。すると農民たちは、麦を植えるか、豆を植えるか、羊を飼うかと、自分で考え行動し、その成果も失敗も自身が受け入れます。これが資本主義、自由経済の始まりです。経済面でもペストは自由をもたらしたのでした。

問題から外れてその後の歴史を見ると、特にペストが深刻だったイギリスで資本主義が発展しました。その結果、強国となって、英語と資本主義を世界中に広げました。

また、新興の産業やスポーツを発達させた面もあります。ペストによる大量死で土地が余ったイギリスでは、農業よりも広い土地を使う牧羊の方が経営効率がよくなり、毛織物工業が発展しました。広大な土地をうまく使うため、羊の面倒を見る牧羊犬を導入すると、羊飼いは暇になリ、その合間に始めた遊びがゴルフになったという説があります。

こうした社会の変化はペストに限

新型コロナウイルス地方分権進むか

過去の感染症と、今回の新型コロナウイルスの違いは何か。

交通手段が発達しグローバル化が進んだ結果、感染拡大のスピードは格段に速まった。都市化の進展で人口密度が高まり、クラスター（感染者集団）対策はますます重要になっている。『感染症と文明』などの著書がある山本太郎・長崎大学熱帯医学研究所教授がさらに指摘

するのは「感染だけでなく情報も急速に拡散している」という点だ。

1918～20年に大流行したインフルエンザが「スペイン風邪」と呼ばれるようになったのは、第1次世界大戦下の各国が兵士の士気低下を恐れて情報統制を敷く中、中立国だったスペインでの流行は自由に報じられたためと言われる。対して現在は、世界各国の感染状況がリアルタ

イムに報道される。「デマでパニックが起きる面もあるが、総合的には情報が多い方が正確な対策を立てられる」と山本教授は話す。

ヒトに感染するコロナウイルスは7種類が報告されている。四つは通常の風邪を引き起こすウイルスで、残る三つが2002～03年に流行したSARS（重症急性呼吸器症候群）、12年に出現したMERS（中東呼吸器症候群）、そして今回の新型コロナウイルスだ。山本教授は「20年弱で新型が3度というのは異常な出現頻度だ」と言い、「無秩序な開発や地球温暖化による生態系の変化で、ヒトと野生動物の距離が縮まっている。巨大都市化をさらに進めるのか、それとも人口も含めた地方分権をするのか。今後の変化は我々の意識次第だろう」とみる。

これまでに大流行した感染症の中で、人類が根絶できたのは天然痘だけだ。「被害を抑えながら、多くの人が免疫を得るのを待つ」という点では、新型コロナウイルスも他の感染症と同じです。撲滅ではなく、いかに共生する社会をつくるかが大事でしょう」（加藤勇介）